



天津日本人学校 実践報告

～FaceTime で你好～

白糠町立白糠中学校

教諭 恐神 邦嗣

1 中華人民共和国（天津）について

中華人民共和国は、世界にある社会主義国の中で経済や人口等において最大規模を誇る。人口は、13億人を超え世界最多であり、国内総生産（GDP）はアメリカ合衆国に次いで世界2位である。一方、一人当たりのGDPは未だ途上国レベルにある。92%が漢民族であるが、56の民族を有する多民族国家である。国土の総面積は、ほぼアメリカ合衆国と同じであり、その広大な国土は、22の省、4つの直轄市、5つの自治区、そして2つの特別行政区で構成されている。

天津市は中国中央政府の四大直轄都市の一つ（他は、北京、上海、重慶）であり、中国渤海湾に国際港を持ち、華北地方の経済・貿易の中心地である。人口は、1,547万人でとても大きい都市である。郊外には、万里の長城など景色の美しい所もあり、産物が豊富である。また、地方色豊かな文化（天津風、年画等）を持ち、地方的な風習も残っている。歴史的な遺跡もあり、観光都市として整備されつつある。そして、華北第一の国際港都市として現在も発展し続けている。



2 天津日本人学校の特徴

天津日本人学校は、中華人民共和国の首都である北京から車で2時間くらいのところにある。設置母体は天津日本人会であり、学校運営理事会は、TOYOTAをはじめとする複数の日本企業からのメンバーで構成されている。

平成8年度に補習授業校としてスタートした天津日本人学校は、平成11年4月1日に設立された。小学部と中学部からなり、児童生徒数は近年150名程度で推移している。教職員は派遣教員、学校採用教員、現地職員を含め25名程度である。

天津日本人学校では、①自ら考え未来を切り開く子・②感性豊かな心をもつ子・③たくましく頑張りのきく子・④磨かれた国際感覚をもつ子をめざす児童生徒像を掲げ、日々教育活動を行っている。具体的な取り組みとして、ネイティブスピーカーによる中国語と英会話の授業が、小1～中3まで毎週行われ、天津市の現地小学校や国際学校との交流を定期的に実施している。それらの各種交流会では、積極的に中国語や英語を使ってコミュニケーションや発表ができる場面など、児童生徒の活躍の機会が多く設けられている。

3 天津日本人学校中学部と日本の中学校との交流授業

I はじめに

世界各地に多数ある在外教育施設、日本人学校ではそれぞれ日本の学校と同じ水準の教育課程のもと授業を行っている。天津日本人学校においても、学習指導要領に基づき教育課程を編成している。同時に、学校教育目標を達成すべく特色のある授業を実践している。天津日本人学校の4つの「めざす児童生徒像」の1つに、「磨かれた国際感覚をもつ子の育成」というものがある。在外教育施設にいる児童生徒は、海外で生活をしているという時点で、多かれ少なかれ国際感覚は身につけていると考えられる。一方、その国際感覚を磨くものは教育の力によるものが大きい。つまり、「磨かれた国際感覚をもつ子の育成」は在外教育施設である日本人学校が担う役割の1つなのである。私が天津日本人学校に赴任してから3年間、教務主任として2年間、この役割を追及してきた。そして、日本の中学校との交流授業は、その実践の1つになる。

II 交流授業を行う2校

1 天津日本人学校中学部

天津日本人学校は、小学部と中学部から構成されている。小学部の各学年の児童数が20~30人に対して、中学部の生徒は5~10人と生徒数は少なく、中学部全体で20人くらいである。大半の生徒が小学部からの進学であるが、中学部からの編入生徒も数名いる。また、中学3年時での進路については、大半の生徒が日本の高校に進学している。学習内容は、前述したように学習指導要領に基づいているので、日本の中学校と同じである。中学3年は、高校受験の関連で3学期に一時帰国する生徒が多いので2学期にはどの教科も教科書の全範囲を終えていることは在外教育施設の特徴と言えるだろう。また、学力は日本の中学校の平均以上の生徒が多いと考えられる。



2 釧路市立阿寒中学校

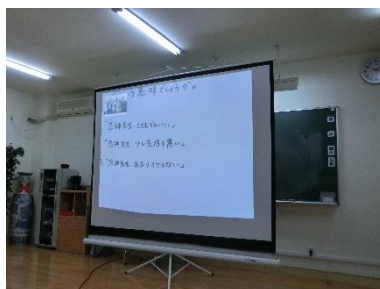
釧路市立阿寒中学校は、釧路市中心街から車で60分くらい離れている郊外にある。元々は、阿寒町立の学校であったが、市町村の統合により釧路市になった。丹頂鶴が有名な町で、自然豊かな環境に恵まれた地域である。この地域には、幼小中高がそれぞれ1校ずつある。阿寒中学校は小規模校であり、各学年1クラスで全校生徒数は100人くらいである。阿寒中学校は、私の現任校だったこともあり、2年継続して実施した交流授業に参加した生徒は、彼らが2学年や1学年在籍の時に指導しているので、全員と面識はあった。平均的な学力は、釧路市のなかでは上位にあった。地域的に、付近に中学校がないので、他校との交流は部活動が主な場となる。釧路市中心地にある中学校と比較すると、より地域コミュニティの結びつきが強い学校と考えられる。



III FaceTime を活用した授業

FaceTime とはアップル社の製品 iPhone、iPad、Mac 等で利用できるアプリである。ビデオチャット、いわゆるテレビ電話機能、ができるアプリで相手の電話番号やメールアドレスを選択して、ボタンをタップするだけでテレビ電話ができる。また、無線 LAN(Wi-Fi)を利用するため、一般的な携帯電話のテレビ電話とは違って別途通話料はかからない。iPhone、iPad、Mac 等は外側と内側にカメラが付いているため、内側のカメラで自分の顔を写したり、外側のカメラで自分が見ている風景や部屋の様子など写したりすることができる。リアルタイムで自分の目で見ているものを相手に伝えることができるのが魅力と言える。

ビデオチャットのアプリとしては、他に Skype があり、主に Microsoft 社の製品で使用するものである。今回の交流授業では、この2つのアプリでテストチャットを行い、画像や音声安定していた FaceTime を採用することになる。今回、FaceTime を利用するにあたり、iPad、プロジェクター、スクリーン、そして無線 LAN 環境を用意する必要があった。



IV 交流授業

1 準備

2年間行った交流授業は、英語科の授業として行った。英語科の学習内容を使い、2校双方向のコミュニケーション活動を通して、それを定着させようとする意図を持った授業である。今回はそのように英語科としての授業であったが、内容を考えた際、総合的な学習の時間と位置づけ、日本と中国の文化や国際理解を扱う授業にすることも可能であると考えられる。今回は、日本語・英語・中国語の3種類の言語で国際理解の内容を扱った。

最初に決めなければならないのは、交流授業の日程であった。2校の年間行事予定から、定期テストや学校行事の近くを避け、かつ2学期にということで日程を調整した。日程が決まったら、授業の指導案を作成して、2校同時にそれぞれが英語科の授業を通して、準備を行った。具体的には、英文法や英単語の既習事項を応用して、スピーチを作成したり、質問やクイズを作成したりした。

ハード面では、交流授業の1週間前位に担当教員が放課後の時間を利用して、FaceTime の通信状況を確認した。確認するポイントは、画像と音声のクオリティで、交流授業で画像や音声に不具合を生じさせないためのチェックである。iPad から画像を大きな画面に映す出すためにはプロジェクターが必要であり、スピーカーは音声を出すために使われた。機器の準備が出来れば、リハーサルをすることが可能になる。リハーサルでは、発表する際の立ち位置や声の大きさ、そして授業の流れを確認する。

2 内容

交流授業のねらいに基づく内容を考えた。最初に、ねらいは大きく3つある。最初に、既習事項の英語や未習事項であるが重要表現を活用して、英語を使ったコミュニケーションをとること。次に、在外教育施設で学ぶ良さを感じ、それを発信することができること。そして、最後に日本の中学校との交流を通して、人とのつながりや日本の良さを発見すること。

交流授業の主な内容は、お互いの学校に関する事、中国語や方言に関する事、そして文化や慣習に関する事であった。それらの内容を英語で交流するので、表現力と理解力が必要とされた。また、それぞれの地域の特性を出す文化的な内容は、国際理解につながるものと考えられた。

3 授業の流れ

①あいさつ



| | |
|--|--|
| 阿寒中学校 | 天津日本人学校 |
| Greeting T : Hello, everyone in Tianjin Japanese school. How are you? | Greeting S : Hello, Ms.Kobayashi. |
| Greeting S : Hello, Mr.Osogami. | Greeting T : Hello, everyone in Akan junior high school. How are you? |
| Ms.Kobayashi tells students what they are going to do. | They listen to her. |

②学校紹介



| | |
|---|--|
| 阿寒中学校 | 天津日本人学校 |
| They listen to him. | Mr.Osogami tells students about the first activity. The first activity is introducing my school. |
| First, some students in Akan JHS introduce their school. | They listen to them. |
| They answer the questions. | After that, some students in TJS ask some questions about Akan JHS. |
| They listen to them. | Second, some students in TJS introduce their school. |
| After that, some students in Akan JHS ask some questions about TJS. | They answer the questions. |

・阿寒中学校の紹介

Our school is in a town called Akan in Hokkaido. It's 68 years old. We have 89 students and 17 teachers at our school. Our class has 36 students.

We have many club activities such as soccer, baseball, table tennis, brass band, track and field, basketball, ice hockey, and ski.

Akan is famous for red crowned cranes and *marimo*. The red crowned cranes come our school ground, so we give corn to them. *Marimo* are natural monuments found in Lake Akan. *Marimo* is made from Algae.

Every year we have a school festival. It's a lot of fun. We draw pictures and perform a play on the stage. We also sing together. We got the best prize at a chorus contest. We enjoy our school life in Akan. Thank you.

・天津日本人学校から阿寒中学校への質問

Q1 : What is the most popular club activity in your school?

Q2 : What kind of thing is popular in your school now?

Q3 : What is your favorite, Hey Say Jump or 関ジャニ∞?

Q4 : Who is the funniest student in your school?

・天津日本人学校の紹介

Our school is in Tianjin, China. It's seventeen years old. We have 144 elementary school students and 24 junior high school students and 19 teachers. We are good friends regardless of school year. We went on a school trip to Beijing last month. We visited Japanese embassy and could see an ambassador to China. We usually bring boxed lunch, but we have school lunch three times a month. We sometimes have exchange meetings with international school and elementary school in China. We will have a music festival this Saturday. We will perform Jupiter . Also, we will sing 手紙.

・阿寒中学校から天津日本人学校への質問

- Q1 : What kind of Chinese dishes do you have?
- Q2 : What kind of club activities do you have?
- Q3 : How is Mr. Osogami?
- Q4 : What language do you think is more difficult, Japanese or Chinese?



③天津日本人学校による中国語講座



・ Teaching Chinese in English

(天津日本人学校の中国語の先生も参加、発音を教えてくださいました。)

- 1 Where is the bathroom? (洗手间在哪里?) 2 How much? (多少钱?)
- 3 That's right. (对) 4 Excuse me. (不好意思) 5 I'm sorry. (对不起)

・ Asking questions about Chinese (天津日本人学校から出題→阿寒中学校は答える)

- Q1 : What's the meaning of "走"? (1走る 2運動する 3歩く)
- Q2 : What's the difference between 你 and 您? (1子どもと大人 2男と女 3タメ語と敬語)

④阿寒中学校による方言講座



・ Teaching Hokkaido dialect

- Q1: 「ごみを捨てる」の意味 Q2: 「恐神先生、なまらめんこい」の意味
- Q3: 「阿寒のご当地キャラ」はどれ Q4: 「阿寒の有名な食べ物」はどれ

| | |
|---|--|
| 阿寒中学校 | 天津日本人学校 |
| Ms.Kobayashi tells students about the third activity. The third activity is something done by Akan JHS. | They listen to them. ⇒ |
| Some students in Akan JHS teaches Hokkaido dialect in English. ⇒ | They learn and practice Hokkaido dialect. Some students may pronounce Hokkaido dialect or answer the question. |

⑤両校による文化・習慣コーナー



・文化・習慣クイズ ※釧路にある難しい地名を5題出題。

クイズを始める前の説明

北海道の山間部を除く地域は、かつてたくさんのアイヌ語地名が存在していましたが、歴史の経過とともにたくさんの地名が失われました。しかし釧路の太平洋岸は昔の地名が今も残り、大事に守られています。また、ここに残るアイヌ語地名の多くが当て字のため、読むことがとても難しいです。今日は天津のみなさんに、これらの地名を学んでもらいたいと思います。

Q1:「大楽毛」 Q2:「来止臥」 Q3:「老者舞」 Q4:「知方学」 Q5:「分遣瀬」

| | |
|--|---|
| 阿寒中学校 | 天津日本人学校 |
| Ms.Kobayashi tells students about the final activity. The final activity is Q&A about each culture or custom. (Akan and Tianjin) | They listen to them. ⇒ |
| First, some students in Akan JHS ask the question. About 3 questions. ⇒ | Some students answer it. |
| Some students answer it. ← | Second, some students in TJS ask the question. About 3 questions. |

・Teaching Chinese culture

1 This is something that we use when we play Chinese traditional sports. What do you think we use to play this? We will give you four choices, so choose one from the four. (① hand ② foot ③ head ④ racket) I will give you ten seconds. The answer is Now we will show you how to play. Thank you.

2 Now we give you a quiz. This is a tool to use when we eat something. When do we use this? (① eat oranges ② eat walnuts ③ eat chestnuts ④ grapes) Which one do you think? We will show you how to use this. That's all. Thank you. Good bye.



⑥ 両校の学校代表生徒あいさつ

・天津日本人学校のスピーチ

Thank you for preparing for this class and teaching us lots of things. We enjoyed learning and teaching each other and we hope you do so. We also hope you learned about Chinese and Chinese culture. Thank you for everything.

・阿寒中学校のスピーチ

Thank you for the opportunity to have this cultural exchange between our schools. Before our meeting we felt nervous but, we have enjoyed speaking with you. Because of the way you taught us about Chinese language and culture. It was fun and easy to learn about China. Please exchange with us again. Thank you for today.

| | |
|---|--|
| 阿寒中学校 | 天津日本人学校 |
| They listen to him. ← | Mr.Osogami introduce the student who has a speech. The student thanks Akan junior high school. |
| Ms.Kobayashi introduce the student who has a speech. The student thanks Tianjin Japanese school. ⇒ | They listen to him. |

V 研究のまとめ

2回の交流授業を終えて、多くの成果が考えられる。交流授業に参加した生徒の感想は、「とても楽しかった」、「また交流授業をやりたい」、「英語を話すことが緊張した」などがほとんどであった。交流授業が終わった後も、回線がまだつながっていたので、2校の生徒同士が冗談を言い合い交流していたことが印象的だった。

準備の段階で自分のいる環境や文化を振り返ることができたことは、彼らに在外施設で学ぶことを再認識させた瞬間であったと考えられる。英語科の授業の中での活動なので、英語の力、とりわけ表現力の向上にも効果的であった。また、天津日本人学校では、毎週中国語の授業があり、今回の交流授業ではそこで学んだ知識を使うことが出来た。さらに、中国での生活から身についた習慣などが活用されていた。1回目の交流授業では、天津で有名な朝食を屋台から購入して、その実物を試食したり、2回目の交流授業では、毬球（ジェンチュ）という中国の羽根蹴りの遊びをしたりした。このように、自分たちの環境を他者に紹介して、伝えることは在外教育施設で学んでいることを再認識する良い機会だったと考えられる。一方、阿寒中学校も自分たちの学校や住んでいる地域を見直す時間を生徒に与えることができた。

ハード面については、テスト通信を行っていたので、画像や音声ともに交流授業実施にあたり概ね良い状態で通信ができた。一方、阿寒中学校では音声聞きづらい状況があり、天津日本人学校側の話していることが伝わらなく、コミュニケーションが困難な時間もあった。しかし、音声の不具合は、準備段階から予想されていたので、あらかじめ伝えたいことを書いた画用紙を用意していた。そして、それを使うことにより不具合をカバーできた。画像は比較的安定しているので、このようなビデオチャットでは視覚的な資料が重要と考えられる。

交流授業は自分のことを相手に伝え、相手のことを理解することがとても重要になる。今回、天津日本人学校の生徒は、自分たちの学んでいることや中国の文化を阿寒中学校の生徒に伝えることができた。また、阿寒中学校の生徒の様子や阿寒の地域を理解することができた。それらのことは、今後彼らが在外教育施設で学んでいくための支えの助けになると考えられる。なぜなら、彼らは自分の存在と自分以外の他者の存在を十分理解して、グローバル社会におけるアイデンティティーを確立していくからである。

4 大気汚染と向き合った3年間

中国天津での3年間の派遣期間は、とても充実しており、多く学ぶことができた期間であった。基本的には、自宅と日本人学校の往復の日々であったが、中国の文化に触れる機会や中国人と話をすることも多くあった。

中国の生活で一番強く感じたことは、子供はとても大切にされ、老人は元気であるということである。私には、幼稚園に通う子供が二人いた。子供を連れて出かける時、路線バスに乗ることもあったが、100%の確率で子供に席を譲ってもらった。どんなに混んでいても、誰かが譲ってくれ、バスの運転手でさえ子供に席を譲ること促していた。他にも、子供に対してはあらゆる場面で、やさしくする様子を見ることができた。老人においては、朝夜の公園での太極拳やダンスなど、とてもアクティブな姿が見られた。大切な子供たちの学校への送り迎えのほとんどは、彼らの祖父母が行っていた。中国の都市部では、親は共働きで祖父母が孫の世話をするという家庭が多いようだ。

さて、そのような中国で生活していく中で一番意識していたことがある。それは、大気汚染指数のAQIである。AQIとは、中国やアメリカで採用されている大気汚染の程度を示す指標で、対象物質はPM10、PM2.5、一酸化炭素、二酸化硫黄、オゾン、二酸化窒素の6種類である。また、指数は優良、良、軽度汚染、中程度汚染、重度汚染、深刻な汚染の6段階に分かれている。日本人学校での休み時間の過ごし方や休日の過ごし方は、AQIが基準になることがほとんどであった。AQIの数値が高いと、外出は控えなければならない。特に子供のいる家庭では、子供の外遊びに関しては、常にAQI次第であった。何の心配もなく子供を外で遊ばせることができる日は、恐らく、1年の内の半分から3分の1程度だった。つまり、雨を気にするというより空気を気にするのが日常的であり、朝起きてニュースをチェックするより、AQI指数をチェックすることの方が多く、ネットやスマホの大気汚染がわかるサイトやアプリは必須であった。

大気汚染がどのように体に影響をして、何をどのくらいの期間でもたらすのかは解明されていない。しかし、大気汚染により制限されることは多いし、その環境下で生活している人は地球上にたくさんいる。今回の派遣では、そのようなことを痛感した。同時に、大気汚染は人がもたらした負の遺産であり、未来ある子供たちのために改善・解決していかなければならない問題として向き合わなければならないと考えられる。